

### 312) 夢果てなし

じゅうご ふるさと  
15歳のときに故郷を出て もうどのくらい流れたろうか  
まともな道を探したけれど いつも危ない橋を渡った  
そしてなしえたことといたら いったい何があったのだろう  
もう人生の盛りは過ぎた 歩いた道は引き返せない

いま想い出を辿ってみれば 惚れた女もいるにはいたが  
いつも実らぬ恋をしていた できることならやり直したい  
過ぎた月日をすべて脱ぎ捨て 明日という日に着替えてみたい  
希望に満ちた倖せの日を 惚れた女と過ごしてみたい

いつの日か見た映画のように 俺の人生奇跡がおこり  
明日という日に出会えたならば あらゆるものを信じて生きよう  
この両腕に抱えきれない 明日を抱いて今日を生きよう  
願い空しく俺の人生 裏目裏目の毎日だった

かけがえのない家族がいたら 俺の生涯家族のために  
捧げることができるだろうか 明日という日を信じて生きる  
そんな人生おくれるだろうか ふと思い出す少年の日々  
悲しいほどにまっ青な空 涙にじんて夢は果てなし

20年もの歳月が過ぎ もう年老いた両親の顔  
どんなだろうか想像できない 故郷の夢いまは果てなし

→